

新たに入会された皆さん
正会員、団体会員

宝塚市社会福祉協議会

新たに入会された皆さん
賛助会員

菊池郁夫

寄付をいただいた皆さん

村田圭三
特活(川西もみの木)
橋田てつ子

(順不同、敬称略 期間:2017年9月1日~11月30日まで)

♡
ご支援ありがとうございました。

(認定)宝塚NPOセンター会員募集・継続のお願い

宝塚NPOセンターは、「市民が市民を支える社会」を作るために、市民活動の支援をしています。人がつながり仲間になる、仲間がつながり地域になる、地域がつながり社会になる、その全ての場面を支えるセンターでありたいと考えています。私たちの活動を、会員として一緒に支えて下さいますようお願いいたします。

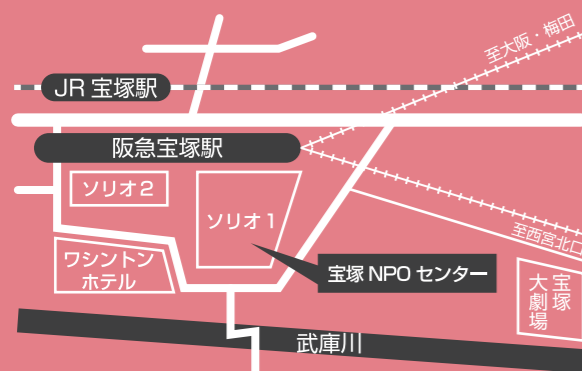
※認定NPO法人への寄付は税制面で優遇されます。

会費

個人正会員	団体会員 (NPO 法人他)	法人正会員	賛助会員
10,000円		30,000円	3,000円

振込先

	銀行振込	郵便振替
銀行名	三菱東京UFJ	
支店	宝塚支店	
口座番号	普通預金 3629422	00930-8-77117
カナ	トクテイヒエイリ タカラツカエヌピーオーセンター	タカラツカエヌピーオーセンター
口座名義	(特)宝塚NPOセンター	宝塚NPOセンター



(認定)宝塚NPOセンター

〒665-0845
兵庫県宝塚市栄町2-1-1
ソリオ1-3F
TEL: 0797-85-7766 FAX: 0797-85-7799
E-mail: zukanpo@hnpo.net
URL: http://hnpo.net/

発行人: 牧里 每治 編集人: 中山 光子

宝塚NPOセンターニュース

TAKARAZUKA NPO CENTER NEWS

市民の手で市民活動を支える

93 このニュースの編集、発送はボランティアの皆さんにご協力いただいています

2017.12

伴走すると
障がい者の方や親御さんが喜んでくれる
それを感じ、走る喜び、感動が2倍になる

宝塚NPOセンターは
メールマガジンを月1回配信しています



zukanpo@hnpo.net

上記アドレスに「配信希望」とご連絡ください

みなさまの寄付で支えられています

http://hnpo.net/support/

認定NPO法人に寄付をすると税金が戻ってきます

認定NPO法人
ぽっかぽかランナーズ 理事長 林 優子

●協働の場づくり

<宝塚市市民活動促進支援事業>

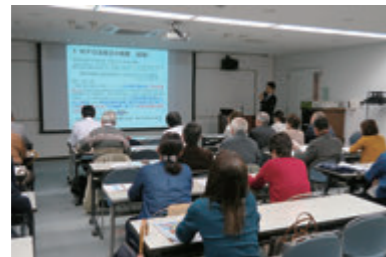
「改正NPO法説明会と交流会」を宝塚市と伊丹市で開催

10月19日に宝塚市、25日に伊丹市で「改正NPO法説明会と交流会」を兵庫県県民生活課と協働で開催しました。両会場とも40名以上の参加者となり、合わせて80余名のNPO関係者に「改正NPO法」の詳細をお届けできました。

宝塚会場では、「この地はNPO活動が活発」と講師が話されたのを示すかのように、皆さん総会での定款変更のためシッカリとメモを取られていました。伊丹会場では、川西市や猪名川町からの団体も参加し、質疑応答も多く活発な説明会となりました。

交流会では、それぞれの活動への熱い思いや苦労話を笑顔で話され、和やかな時間が流れました。会終了後、あちこちで名刺の交換をされる団体が多く、これを機会に新しいつながりが増えていきそうです。

NPO法の改正にともなう手続きについて、どのように進めればよいかお悩みの場合は、継続的な相談の場として宝塚NPOセンターや指定管理をしている伊丹市立市民まちづくりプラザをご利用ください。



分かりやすく丁寧に説明いただきました



交流会で各団体の紹介に聞き入る皆さん

●人と組織づくり

<生きがいごとサポートセンター事業>

講演会「映画館でつながるまち 豊岡で暮らすことを楽しむ場所を作る」を開催

10月14日、但馬地域にある豊岡劇場においてコミュニティ・ビジネスの事例を紹介する講演会を開催し、22名にご参加いただきました。

豊岡劇場は京丹後一但馬一鳥取北部の地域で唯一現存している映画館です。2012年3月に閉館を余儀なくされましたが、2014年12月にクラウドファンディングの力を借りて復活を遂げました。

豊岡劇場の代表・石橋秀彦さんはただ復活させるだけではなく、いろいろな人を主体的に巻き込みながら“映画館だけじゃない映画館”をモットーに地域に根差した活動をスタートさせました。

地域の主役はそこに住む人であり、当事者こそが地域の未来を拓くという石橋さんの熱意あるお話を聞き、参加された方々からは「自分の地域について意識し始めた」「一歩踏み出す大切さを痛感した」などの感想をいただきました。

座談会でも参加者から石橋さんへの質問が途切れることがなく、とても充実した時間となりました。

今後も「コミュニティ・ビジネスやソーシャル・ビジネスに関心がある」「地域活動や社会貢献をしてみたい」という想いをカタチにする機会を提供していきます。



豊岡劇場の外観



豊岡劇場代表の石橋秀彦氏による講演



映画ホールを会場にしました

コラム

「日本初!足こぎ車いすランナーも支援するぽっかぽかランナーズ」

マラソンは障害の有無に関わらず同じ土俵の上で楽しめるスポーツだと思います。

障害があっても思い切り走らせてあげたい、長距離にも挑戦させてあげたいという思いから、2013年10月に特定非営利活動法人ぽっかぽかランナーズを設立しました。あらゆる障害者ランナーに伴走ランナーをマッチングして、マラソン大会出場をサポートするのが活動内容です。練習会、交流会、「ぽっかぽか講習会」を開催し、地域社会において多様な人々が互いに尊重し合い共に生きていく社会の実現に寄与することを目的としています。このような活動を通じて、障害者ランナーが社会のルールを学び、自立支援にもつながっていると思っています。

足こぎ車いすは、車いすの前にペダルがついていてペダルをこぐことで前に進みます。もともとは脳梗塞などの後遺症で半身麻痺のある方のリハビリ用に開発されました。立てない方も、歩けない方も、麻痺のある方も自分の足で動く喜びを感じるとともに、奇跡的な回復をされているケースもあります。

残念に思うことは「私には無理」「この子には無理」と試乗さえされない方が多いことです。

マラソンに興味のない方も、練習会や講習会で気軽に「足こぎ車いす」の試乗をしていただけたらと思っています。

認定NPO法人 ぽっかぽかランナーズ 理事長 林 優子

取材に行ってきました!!

「マラソンを通して、社会に飛び込み受け入れられるようになれば」

今回お話をうかがったのは「ぽっかぽかランナーズ」の理事長 林優子さん。

林さんが団体を立ち上げられたきっかけは、障がいのある人が学校でマラソンに力を入れて取り組んでも、卒業した後はサポートが何もないと気づいたこと。本当は走れる力を持った方達が、色々な大会にチャレンジできるような支援がしたいとの思いで「ぽっかぽかランナーズ」を立ち上げられました。次男の聖憲さん(きよくん)はドラベ症候群という難病と闘いながらマラソンに参加されていて、林さんも伴走ランナーとして活躍されています。

「障がいや足こぎ車いすを知るきっかけに」

私たちは障がいについて、どれほど理解しているのでしょうか。伴走ランナーをしたという方は障がいのある方と関わった経験がないと心配される方が多いそう。そこで、障がいについて知ってもらおうと「ぽっかぽか講習会」を開かれています。毎年テーマを決めて「障がいの体験」や「障がいがある方の講演」などを通して、障がいがあっても普通の生活をし、社会で活躍して輝けることを伝えています。



足こぎ車いすで宝塚ハーフマラソンに参加
(写真撮影:小川高志)



練習会に集まったメンバー

また、そこでは足こぎ車いすの体験もおこなっています。

元々はリハビリ用に考案された足こぎ車いす。聖憲さんの足が弱ってきていた時に、歩ける時間を延ばしてあげたいと使ってみたところ、筋肉が太くなり引きずっていた足があがるようになったそう。

ぜひ他の方にも広めたいと、体験や貸し出しを行っています。実際に体験してみると、こぎ出しは軽く、走る楽しさで自然と笑顔になれるものでした。

「法人を設立する時から認定は絶対取りたいと思っていた」

2017年9月に認定NPO法人となったぽっかぽかランナーズ。認定を目指した大きな理由は、大阪マラソンの寄付先に申請すること。足こぎ車いすや活動について広く多くの方に知ってもらい、伴走することで得られる感動を知ってもらいたいと林さんは語ります。認定を取るのは大変だけれども「何故認定を取るのか」が大切で、そこがしっかりしていれば色々な人が力を貸してくれる。実体験を元にそう話される林さんからは、活動の原動力となる強い思いを感じました。

認定NPO法人ぽっかぽかランナーズ 連絡先 E-mail:npo@pokarun.com
Web:http://www.pokarun.com/
Facebook:https://www.facebook.com/pokkapokarunners/